

徐俊植氏への「社会安全法」再適用阻止は 在日韓国人政治犯全員の無条件即時釈放に

# 5/24 在日韓国人政治犯救援映画集会

1:00~ A121

学生、教職員の方々に、在日韓国人「政治犯」徐俊植氏への「社会安全法」再適用阻止、全「政治犯」即時釈放を求める5月24日、「政治犯」救援東京集会に参加された方々に謝意を述べます。

京都出身の在日韓国人二世徐俊植氏は、日本社会の根柢に差別排外主義の下で刺戟された自らの民族主体性を確立する為、密生母國のソウル大学に留學した。しかし77年、兄徐勝氏と共に韓国籍復権運動の中心人物として逮捕され、言論を絶する拷問の末に、「北の脅威」を以て「テロギ」にテロギ上げられた。この様なテロギ上げ事件は、「北の脅威」を以て国内の民主化を弾圧する共産政権の常套手段であった。懲役七年の刑を受けた俊植氏は、(勝氏は無罪) 8年5月27日、刑期満了にも関わらず、「再犯の恐れがある」という当局の恣意的判断により「社会安全法」を適用され、獄中から一歩も出ることなく清州保安監獄に再収監された。そして現在も、自衛的な転向強硬・拷問を受けている。——「しかし、私は断向しなかった。何故ならこれは、只と私だけの問題ではなく、朝鮮民族全体の問題だからです。——自らにふりかかった苦しみも、朝鮮民族の一人として受けとめ、立ち向う彼の生き様は、近代の日本と朝鮮の關係、私たちの生のあり方を撃つ。

昨年10月、朴射殺事件以降、マスコミが韓国の「春」「民主化」を報道する中、12月12日親中派、全斗煥らの反動クーデター時、維新体制維持の動きは強化されていった。この許すまじき反民族、反民主的行爲は、必然的に二二数日間の非常戒嚴令・維新体制の撤廃を求める、数十万人の学生、労働者、市民の求起を引き起した。このような状況の中で、二の5月27日、徐俊植氏への「社会安全法」再適用阻止の断固として阻止するのなか、我々に向けていた。

現在、五右の元刑確定者を名の、四十名にも及ぶ在日韓国人「政治犯」が韓国の獄中にある。今後、有期刑を受けている「政治犯」達の中から刑罰満了者が続出する。今回、徐俊植氏の釈放の是非を争うことは、彼らへの「社会安全法」再適用阻止にも悪影響を及ぼす。徐俊植のオモムシさん(オモムシ)は、救援活動の中心人物に務める60数回の獲釋の末、密生から現在入獄中である。——「せめて、刑期を終えた俊植だけでも出してほしい。——密生からオモムシは許さ続けていく。

救援活動の成果と民主化斗争の商場により、昨年10月の「政治犯」の釈放を勝ち取った。しかし、彼らに対して日本政府は一貫して「政治犯」テロギ上げの追認を行ない、「政治犯」の再入獄——原状回復(元の在留権の交付)を拒否している。我々はこのような日本政府のテロギメな対応を糾弾し、「政治犯」の原状回復と人権救済措置を断固要求してゆかねばならない。又、今年一月「政治犯」家族口連承連行動は、「政治犯」救援の国際的世説を巻き起し、口連人権委員会は、「政治犯」問題の正式提訴を受理した。さらに徐俊植出身地の京都において、5月16日から18日にかけて、徐俊植氏の「社会安全法」再適用阻止、無条件即時釈放を要求する引時間ハンガーストライキが貫徹された。今こそ、在「政治犯」即時釈放を求める声を、二二京大の地からも掲げていくべきではないか!

オモムシさん(オモムシ)は、救援活動に決意された方々に謝意を述べます。

## 政治犯救援東京実行委 映画「手を握りあえる日」再び上映